

要旨

コーパス調査による事実条件文についての研究

孟 慧

本研究は、事実条件文についての研究である。本論文では、先行研究を踏まえて本研究における事実条件文についての捉え方を論じた上で、コーパスを用いて日本語学習者と日本語母語話者を対象に、事実条件文の使用について調査と考察を行った。

従来の研究では、「窓を開けると/開けたら、風が入ってきた」のような、前件後件とも過去に1回の事態が成立したことを意味する文を条件文とするかどうかについて見解の相違がある。本研究は、まず、先行研究による事実条件文の捉え方を確認した上で、上で挙げたような文を事実条件文として捉えるという立場を明確にした。次に、4つの先行研究を取り上げて、各説における事実条件文の分類を確認した。先行研究では、前件と後件の関係・前件と後件の主体の異同によって、事実条件文が「連続」「きっかけ」「発見」「発現」という4種に分類されることが共通しているが、4つの説による各用法の説明を比較すると、若干の違いがある。本研究は、先行研究における事実条件文の分類基準を検討した上で、前件と後件の主体が同一かどうかによって「連続」と「きっかけ」を分け、前件・後件の述語のかたち（ル形対テイル形）によって「発見」と「発現」を区分する。また、前件が時を表すことばで構成されているもの・時を意味するものを「時」とし、事実条件文を5種に分類した。

先行研究によると、事実条件文は中国語では条件文とされないという。そのため、中国語を母語とする日本語学習者にとって、事実条件文が習得しにくいと推測し、日本語学習者についてのコーパス調査を行った。その結果、どの言語を母語とする日本語学習者の使用においても、形式や用法の違い、周辺的な表現形式との混乱、使用の回避などが見られ、中国人日本語学習者だけでなく、どの言語を母語とする日本語学習者も、事実条件文の習得ができていないことが分かった。事実条件文が上手に使われない原因を明確にするため、筆者は中国人日本語学習者としての自身の学習経験を踏まえ、教科書における指導の不足や事実条件文の中国語訳が無標となる場合が多いことがその原因だと推測し、教科書における事実条件文の説明を調べ、コーパスを利用して事実条件文の中国語訳の調査を行った。また、コーパス調査においては、日本語学習者の使用と比較するため、日本語母語話者による事実条件文の使用も調べた。その結果、日本語母語話者は典型的とされない事実条件文を使っている。日本語母語話者は物語を語る際に、「と」を使うべきところに「たら」を使っている。日本語母語話者による事実条件文の形式の使用に揺れが見られた。また、書き言葉の場面における日本語母語話者による事実条件文の「連続」、「きっかけ」文について考察を行った。考察を通して、書き言葉の場面における事実条件文の「と」と「たら」の使用の特徴を明らかにした。